

雑 録

昭和12年世界鐵鋼業概況 (其の1)

(日本製鐵參考資料第5號より抜萃)

1. 世界生産高 昨 1937 年に於る世界の製鋼高總計は未曾有の記録を作り統計未詳の西班牙を除き、製鋼諸國の鋼生産高は皆前年の數字を突破し、而も多くの國に於ては過去何れの年の記録をも破たのであつた。

スチール誌の見積に依れば、昨年の鋼塊(鑄鋼を含む)生産高は 1936 年の 122,331,000t に對し 133,844,000t 即 941% を増加した、一方銑鐵(合金鐵を含む)の生産高は概算 102,035,000t 即前年の 89,887,000t に對し 135% を増して初めて 100,000,000t を突破し新記録を樹立したが從來のレコードは 1929 年の 97,072,000t であつた。

國別に就て見れば合衆國の鋼塊及銑鐵生産高は双方共 5 ヶ年間連續増加した。然し昨年の數字も 1929 年のレコードには及ばなかつた。昨年の鋼塊及鑄鋼の生産高は前年よりも約 635% を増加したが然し 1929 年のそれに比すれば 854% 少く、又銑鐵の生産高は 195% を増したが、これ亦、1929 年のそれに及ばざること 1298% であつた。然しながら若し夏季の生産率を年末迄持續し得たとすれば此の比率に幾らかの變化を示したであらう。昨年に於る合衆國生産高の世界生産高合計に對する割合は鋼は殆ど前年と同じで

3855%, 銑鐵は前年の 3452% に比し 3634% であつた。

繼て歐洲に就て見るに、昨 1937 年に於る歐洲諸國の製鋼高合計は前年に比し 101% 増の 71,970,000t、銑鐵のそれは 106% 増の 57,520,000t であつた。

昨年の世界銑鐵生産高は鋼生産高の 7623% であつたが 1936 年には 7347% であつた。

歐洲中生産高の第 1 位は獨逸で其製鋼高は一切の前記録即戰前領域の分の記録さへ破り、又製銑高も最高を占め戰後に於る新レコードを作た。第 2 位はロシアで、銑鋼共新記録を樹立し、次に 10,000,000t 以上の製鋼高を示したのは英國であつたが、銑鐵の生産高に於ても亦第 3 位を占めた。製鋼高の第 4 位は佛蘭西、第 5 位は白耳義、第 6 位はルクセンブルグで、次はチエコスロバキヤ、伊太利、ポーランド、瑞典及ハンガリーの製鋼高は從來の記録を破たが、チエコスロバキヤ、伊太利及瑞典は其の製銑高に於ても新記録を樹立した。

歐洲外に於て鐵鋼生産高の増加した國は日本、カナダ、印度及濠洲の諸國で、是等の國は製鋼高に於てレコードを作たのみならず製銑高に於てもカナダを除き新記録を樹立した(カナダの製銑高は 1929 年のレコード數字に比して稍々少し)。

外國貿易 外國貿易に力を傾注した諸國の昨年の鐵鋼輸入高は

第 1 表 世界鋼塊及鑄鋼生産高 (單位 1,000t)

	1937 年	1936 年	1935 年	1934 年	1933 年	1932 年	1931 年	1930 年	1929 年	1928 年
合 衆 國	51,609	48,525	34,467	26,502	23,232	13,681	25,945	40,699	56,433	51,544
加 奈 陀	1,445	1,078	915	741	403	335	671	1,069	1,391	1,240
英 國	12,900	11,785	9,859	8,850	7,024	5,261	5,203	7,326	9,636	8,520
佛 國	7,825	6,601	6,177	6,675	6,427	5,550	7,697	9,296	9,544	9,349
白 耳 義	3,850	3,124	2,975	2,901	2,687	2,745	3,073	3,300	4,066	3,871
ルクセンブルグ	2,540	1,949	1,808	1,901	1,815	1,925	2,002	2,234	2,659	2,526
伊 太 利	2,100	1,992	2,174	1,820	1,755	1,369	1,430	1,746	2,109	1,932
ス ペ イ ン	350	365	555	635	498	525	594	910	985	770
瑞 典	1,060	962	882	848	620	520	530	601	683	567
獨 逸	19,380	18,900	16,184	11,725	7,690	5,678	8,136	11,354	15,986	14,285
塊 地 利	625	411	358	304	222	201	317	461	622	626
チエコスロバキヤ	2,290	1,535	1,135	938	749	662	1,490	1,721	2,103	1,704
ポ ー ラ ン ド	1,85	1,123	930	831	805	542	1,020	1,217	1,355	1,226
ハ ン ガ リ ー	665	543	439	310	224	177	311	363	505	478
ロ シ ア	17,000	16,078	12,320	9,412	6,790	5,900	5,330	5,610	4,828	4,206
日 本	6,000	4,944	4,858	3,682	3,150	2,300	1,843	2,288	2,294	1,840
印 度	1,100	866	862	798	694	570	625	619	575	410
濠 洲	870	750	697	518	393	221	360	420	460	462
ザ ー ル	—	—	—	1,919	1,649	1,440	1,513	1,904	2,174	2,040
其 他	850	800	750	450	350	300	350	400	400	350
世 界 合 計	133,844	122,331	98,345	81,160	67,177	49,902	68,434	93,478	118,763	108,134

註 1. 獨逸の數字には 1935 年以降ザールの分を含む。

2. 日本の數字には滿洲及朝鮮の分を含む。

第2表 世界銑鐵生産高(單位1,000t)

	1937年	1936年	1935年	1934年	1933年	1932年	1931年	1930年	1929年	1928年
合衆國	37,080	31,029	21,373	16,139	13,346	8,781	18,426	31,752	42,614	38,156
加奈陀	965	747	655	438	258	160	466	813	1,160	1,083
英國	8,500	7,721	6,424	5,969	4,136	3,574	3,773	6,192	7,589	6,611
佛國	7,825	6,130	5,696	6,053	6,223	5,448	8,068	9,870	10,198	9,821
白耳義	3,850	3,156	2,982	2,860	2,667	2,705	3,180	3,311	4,030	3,843
ルクセンブルグ	2,540	1,955	1,842	1,968	1,858	1,929	2,020	2,433	2,860	2,726
伊太利	865	793	683	564	544	481	532	569	718	545
スペイン	250	250	350	365	334	296	468	606	740	552
瑞典	670	623	603	550	341	277	411	488	516	431
獨逸	15,700	15,058	12,637	8,602	5,183	3,870	5,964	9,540	13,187	11,615
埃地利	320	244	190	132	87	93	143	282	455	451
チエコスロバキヤ	1,660	1,122	798	591	491	443	1,146	1,414	1,618	1,544
ポーランド	690	575	388	376	301	196	341	470	693	673
ハンガリー	350	301	183	138	92	65	157	253	362	281
ロシア	14,300	14,088	12,411	10,273	7,085	6,101	4,782	4,920	4,253	3,322
日本	3,000	2,882	2,739	2,400	2,019	1,525	1,385	1,635	1,491	1,520
印度	1,750	1,543	1,466	1,331	1,065	914	1,072	1,180	1,348	1,055
濠洲	720	670	698	487	336	190	380	308	420	410
ザール	—	—	—	1,797	1,567	1,327	1,491	1,881	2,071	1,905
其他	1,000	1,000	800	700	600	700	800	750	750	850
世界合計	102,035	89,887	72,918	61,733	48,533	39,075	55,005	78,671	97,073	87,394

註 1. 獨逸の數字には 1935 年以降ザールの分を含む。
 2. 日本の數字には滿洲及朝鮮の分を含む。

前年よりも著しく大で特に輸出貿易に於て然りであつた。合衆國の輸出高は前年より約 175% を、英、獨、佛、白のそれは 25% 以上を増大したが、英國では又輸入高に於ても著しい増加を示した。

世界各國に於る鋼塊及銑鐵の生産高比較並主要國に於る鐵鋼貿易の比較は別表に示す通りである。

人口 1 人當り鋼消費高 又主要國に於る人口 1 人當り鋼消費高(生産高に輸入高を加へ輸出高を差引きたるものを人口で割つたもの)に就て見るに、合衆國は昨年(1936年)に於ても又第 1 位を占め前年の 830 lbs に對し 844 lbs に増加し、第 2 位は白耳義、ルクセンブルグの 746 lbs で、前年の 602 lbs に比し著しい増加となつて居る。英

國と獨逸のそれは同額で 548 lbs であつたが、前年に於る英國の數字は 500 lbs、獨逸のそれは 538 lbs であつた。佛蘭西の消費高は前年の 279 lbs から 318 lbs へ、ロシアのそれは 244 lbs から 259 lbs に増加した。一方日本の消費高は前年の 158 lbs から 298 lbs と 88% の激増を示した。伊太利のそれも亦前年の 107 lbs に對し 135 lbs と増加した。

主要國人口 1 人當り鋼消費高比較(單位 lbs)

	1937年	1936年	1937年	1936年	
合衆國	844	830	佛國	318	279
白耳義	746	602	日本	298	158
ルクセンブルグ	746	602	ロシア	259	244
英國	548	500	伊太利	135	107
獨逸	548	538			

第3表 世界主要國鐵鋼輸出入(單位 1,000t 屑鐵を除く)

	輸 出					輸 入				
	1937年	1936年	1935年	1934年	1913年	1937年	1936年	1935年	1934年	1913年
合衆國	3,400	1,222	1,020	997	2,648	500	525	405	272	273
英國	2,600	2,205	2,372	2,253	4,969	1,800	1,483	1,152	1,367	2,331
獨逸	3,710	3,550	3,089	2,429	6,200	475	508	635	1,377	300
佛國	2,050	1,575	1,842	3,030	640	170	173	170	200	185
白及ルクセンブルグ	4,000	3,189	3,124	3,345	1,550	445	404	290	306	874
合計	15,760	11,741	11,452	12,054	16,007	3,390	3,093	2,659	3,522	3,963

註 1. 獨逸 1913 年の數字にはザール及ルクセンブルグの分を含み、又 1935 年以降の獨逸の數字にはザールを含む。
 2. 1913 年の白耳義及ルクセンブルグの數字は白耳義の分のみ。
 3. 1934 年の佛國の數字はザールの分を含む。

2. 歐洲市場概況 1937年に於る歐洲の鐵鋼貿易を概観すれば、昨年初めは政治的方面に多少の暗雲が漂へる外は一般的に瑞祥の新年を迎へたのであつた。世界各方面に於る鐵鋼の需要は可なり多く、價格は上向き傾向を持ち、製鋼諸國は取引の活況を見越して生産の増加に努めつゝあつた。而して此の期待は初夏に入り、國內輸出貿易の双方に於て實現されたのであつた。別表に示す歐洲輸出價格は國際貿易に關する此の事情を物語て居る。割當及價格を統制する歐洲鋼カルテルに於ては年初に於て殆んど改變する所がなかつた。然しながら或る市場からの需要は非常に大で其の爲め或る場合にはt當り2磅に達するやうなプレミアムが氣前よく大陸の生産業者に提供された。かかる結果として、夏の初めには、是等のプレミアムは少くとも一部を公定價格に加ふことに決定された爲め價格は7月早々から一般的に昂騰を見るに至た。

英國鐵鋼聯合會指導の下に在る英國の生産業者は、斯の如き價格事情を性急に利用することをしなかつた。當時に於ても又全年を通じて見ても英國の國內市場は非常な活況を呈し、經濟的復活と再軍備計畫とに基く需要の激増に對應する爲には全國の鐵鋼業者は全生産能力を擧げての作業に驅られたのであつたが、實際の所英國の熔鑄爐及製鋼工場は國內の需要に應じ切れず不足の分は輸入に仰がねばならぬ事情に在た。これが爲め輸入税は低減され、輸入割當は増加され、海外向價格の引上げに對してはたゞ微温的の獎勵が與へられたに過ぎなかつた。漸く5月に至り輸出價格は引き上げられたが、然し大陸の場合と同様程度のものではなかつた。

8月に入て、外國市場は聊か活氣薄の兆を示し需要の減少を見るに至た。然し同月末迄は以前程無茶ではなかつたが依然としてプレミアムは迅速な引渡に對して提供されたのであつた。黒板、亞鉛鍍板等の如き鋼材は既に下向きとなつて居た。半製品及或る種の壓延鋼材に對する英國の需要は、白耳義及ルクセンブルグの工場をして高率の作業を持續せしめたが然しながら將來に關する不安が漸次擡頭しつゝあつた。

年末に向ふに従ひ主として輸出貿易に力を注いで居た大陸の諸工場に於ては、取引不況を呈し、統制鋼材の價格は表面的には夏期のレベルを維持して居たと云へ或る會社...概ねカルテル非組員

に依て値引されるに至た。手短に云へば事情は年初のそれと正反對で、以前は買手の方からプレミアムが提供されて居たのが今では賣手の方から値引きを申出るやうになつた。然しカルテルに於ては最低價格を維持することゝ、加盟員に對する輸出向鋼材壓延用の粗鋼割當額を減ずることに決定した。

英國の輸出値段は堅調を持ち、又英國市場からの需要は依然良好で、12月には半製品75,000tの追加輸入割當が大陸の生産業者に對し割當てられた。

昨年後半期に於る輸出市場に就て特筆すべきことは、亞米利加の競争が、遠隔の市場のみならず大陸及英國市場まで進出したことである。これ即市場に軟弱を招來し且、大陸の生産業者に價格の割引を餘儀なくせしめた一原因であつたと云へる。

然し、11月末歐洲鋼カルテルの會合が巴里に開催された際、亞米利加製鋼會社の代表も出席し、或る鋼材の價格に就て協定された。同時に又もつと廣い範圍の協定を得んが爲め、近々兩者間に於て事態の検討を行ふことになつて居る。

要するに歐洲鋼輸出貿易の軟弱は主として極東に於る製鋼業の發達と、年末に向ては亞米利加に於る經濟的反動とに起因せるものと一般に見做されて居る。一方歐洲鋼カルテルの統制力は全體から見ても良好であつたと云へる。

別表歐洲國內價格表に示す主要製鋼諸國の國內市場に就て一瞥して見るに、英國では5月に價格を引上げて居るが、これは需要の激増と生産費の昂騰とに鑑みれば當然と云へる。然し1938年に於ては此の上引上げられる事はあるまいと需要者側に於ては確信して居る。獨逸は國內市場の活況に恵まれ、且嚴格なる統制に於て、大抵の鋼材の國內價格には全年を通じて變化なく前年と同様であつた。

白耳義に於ては多くの鋼材價格が著しく引上げられ、又佛蘭西ではそれ以上であつた。此の原因は主として通貨の下落にあるが、新社會法の適用に基因する生産費の昂騰も又其一原因を成して居る。

概観すれば1937年は可なり好況の年であつて、特に一、二の國に於ては明かに繁榮の年であつたと云へる。尙1938年即ち本年の展望は若し、世界の或る紛争地に於る事態の好轉を見ることを得ば不況の年と斷ずる理由を見出さない。

第4表 1937年歐洲鐵鋼價格表(國內)(工場又は爐渡)

1. 英國 (t當り磅)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d
鑄物銑												
シリコン 2.50-3.00	4-1-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	5-6-0	"
製鋼用銑*	3-19-6	4-2-6	"	"	5-0-0	"	"	"	"	"	"	"
高爐用コークス	1-1-6	1-2-6	1-4-9	1-8-0	1-12-6	1-15-6	"	"	"	1-17-6	"	"
ビレット	6-5-0	"	"	"	7-17-6	"	"	"	"	"	"	"
ロール (スタンダード)	8-5-0	"	"	8-6-3	10-2-6	"	"	"	"	"	"	"
棒鋼	9-10-0	"	"	"	11-9-0	"	"	"	"	"	"	"
形鋼○	9-3-0	"	"	"	11-0-6	"	"	"	"	"	"	"
プレート(船舶、橋梁用)	9-16-9	"	"	"	11-13-0	11-14-3	"	"	"	"	"	"
シート(黒24番)	12-0-0	"	13-0-0	14-0-0	15-15-0	"	"	"	"	"	"	"
シート(亞鉛鍍板24番)	14-0-0	"	15-10-0	17-0-0	19-10-0	"	"	"	"	"	"	"
ワイヤー(素)	11-1-0	11-5-0	11-5-0	"	"	13-2-6	14-10-0	17-0-0	19-10-0	"	"	"
プープ及バンド	10-5-0	"	"	"	12-4-0	"	"	"	"	"	"	"

註 *印はミッドルボロー渡11月より、國産銑のみの使用者に對しt當り5志の割戻しが與へられた。
○印は國內取引に於て形鋼とプレートに對してはt當り15志、ビームに對しては22志6片の割戻しが國産品のみの購入者に對して與へられた。

2. 獨逸 (t 當りライヒスマーク)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
鑄物 銑 シリコン 2'50-3'00	63	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ヘマタイト銑	69'50	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
高爐用コークス	19	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ピレット	96'50	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
レール(スタン ダード)	132	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
棒 鋼	110	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
形 鋼	107	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
プレート 5mm	127	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
シート(黒 3mm)	144	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
シート(亜鉛鍍 波板 24番)	370	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ワイヤー(素)	173	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
フープ及バンド	127	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

3. 佛 蘭 西 (t 當りフラン)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
鑄物 銑 シリコン 2'50-3'00	375	378	400	425	〃	〃	462	505	〃	〃	554	〃
高爐用コークス	127	〃	137	〃	148	158	〃	〃	178	189	〃	〃
ピレット	590	〃	〃	655	〃	〃	〃	725	757'50	〃	790	840
レール(スタン ダード)	768	780	〃	830	975	〃	〃	1,050	1,080	〃	1,108	1,150
棒 鋼	800	〃	〃	885	〃	〃	〃	960	995	〃	1,030	1,150
形 鋼	780	〃	〃	860	〃	〃	〃	935	970	〃	1,005	1,055
プレート 5mm	1,010	〃	〃	1,105	〃	〃	〃	1,195	1,240	〃	1,285	1,350
シート(黒 2mm)	1,250	1,350	〃	〃	1,400	〃	1,450	1,500	〃	〃	〃	〃
シート(亜鉛鍍波 板 2mm)	2,100	〃	〃	〃	2,150	〃	〃	2,250	〃	〃	2,210	2,200
ワイヤー(素)	1,320	〃	1,340	1,360	〃	〃	〃	1,480	1,520	〃	〃	〃
フープ及バンド	915	〃	〃	1,000	〃	〃	〃	1,080	1,120	〃	1,155	1,210

4. 白 耳 義 (t 當りベルギーフラン)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
鑄物 銑 シリコン 2'00-3'00	550	665	730	810	825	〃	〃	〃	800	〃	760	〃
高爐用コークス	147	185	〃	〃	〃	215	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ピレット	640	〃	700	795	835	960	〃	〃	〃	〃	〃	〃
レール(スタン ダード)	1,200	〃	1,250	〃	〃	1,375	〃	〃	〃	〃	〃	〃
棒 鋼	775	〃	875	975	〃	1,100	〃	〃	〃	〃	〃	〃
形 鋼	775	〃	875	975	〃	1,100	〃	〃	〃	〃	〃	〃
プレート 5mm	950	〃	1,135	1,245	〃	〃	1,375	〃	〃	〃	〃	〃
シート(黒 3mm)	1,150	1,215	1,340	1,460	〃	〃	1,575	〃	〃	〃	〃	〃
亜鉛鍍波板 0'5mm*	2,250	〃	3,000	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ワイヤー(素)	1,300	1,350	1,425	1,650	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
フープ及バンド	950	1,010	1,100	1,350	1,400	1,500	1,550	〃	〃	〃	〃	〃

註 * 印 引渡價格

第5表 1937年歐洲鐵鋼價格表(輸出)

1. 英國 (F.O.B 積出港 t 當り磅)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d
[銑鐵]												
鑄物銑 No.3ミッド	3-18-6	"	"	5-0-0	5-15-0	6-0-0	"	"	"	"	"	"
ルスポロー	4-10-0	"	4-15-0	5-10-0	6-5-0	7-0-0	7-5-0	"	"	"	"	"
ヘマタイト銑東海岸												
[半製品]												
ビレット	6-5-0	"	"	"	7-17-6	"	"	"	"	"	"	"
線材	9-12-6	"	"	"	10-0-0	10-16-0	"	"	"	"	"	"
[鋼材]												
レール(スタンダード)	8-5-0	8-7-6	8-12-6	8-15-0	9-0-0	10-2-6	"	"	"	"	"	"
棒鋼	9-0-0	9-5-0	9-10-0	10-0-0	11-0-0	"	"	"	"	"	12-5-0	"
形鋼	8-10-0	9-2-6	"	9-12-6	10-12-6	"	"	"	"	"	"	"
プレート(船、橋)	9-12-6	10-3-9	"	10-15-0	11-11-3	"	"	"	"	"	"	"
タンク												
シート(黒24番)	11-15-0	12-5-0	13-0-0	"	15-0-0	"	"	"	"	"	"	"
亜鉛鍍波板	14-0-0	15-0-0	16-0-0	16-15-0	18-15-0	"	"	"	"	"	"	"
29番												
フープ及バンド	10-0-0	"	"	"	"	13-15-0	"	"	"	"	"	"
ワイヤー(素)	10-10-0	"	10-15-0	11-0-0	"	14-0-0	14-10-0	19-0-0	19-10-0	"	"	"
亜鉛鍍線	12-10-0	"	"	14-10-0	"	6-10-0	17-0-0	20-5-0	23-5-0	"	"	"
ワイヤーネール	12-0-0	"	"	14-0-0	"	16-0-0	16-10-0	18-10-0	"	"	"	"
ブリキ(1箱108磅)	19-9	"	1-0-6	1-4-6	"	"	1-5-0	"	1-6-0	"	1-3-6	1-3-6
フェロマンガ	\$80	"	\$50	\$95	"	\$102.50	"	"	"	"	"	"
(大西洋海岸渡關稅)												

2. 大陸 (F. O. B. Channel or Northern seaports t 當り金磅)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d	£ S d
[銑鐵]												
鑄物銑(シリコン)	2-2-6	2-5-0	3-2-6	3-10-0	3-19-0	4-1-0	3-19-0	3-6-0	3-0-0	2-15-0	2-13-0	2-14-0
250-300												
ベシツクベセマ	1-15-0	"	2-10-0	2-15-0	3-15-0	3-17-0	3-15-0	3-2-6	2-19-0	2-12-0	"	"
銑												
[半製品]												
ビレット	3-0-0	"	3-7-0	4-7-6	"	"	5-7-6	"	"	"	"	"
線材	5-2-6	"	6-0-0	"	7-0-0	"	6-10-0	"	6-2-6	"	"	6-0-0
[鋼材]												
レール(スタンダード)	6-0-0	"	5-15-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"
棒鋼	3-18-9	4-0-0	5-0-0	"	"	"	6-0-0	"	"	"	"	"
形鋼	3-18-0	4-0-0	4-17-6	"	"	"	5-7-6	"	"	"	"	"
プレート 5mm	4-12-6	5-10-0	5-15-0	6-2-6	"	"	7-2-6	"	"	"	"	"
シート(黒24番)	7-0-0	7-5-0	7-15-0	"	8-10-0	"	8-15-0	"	"	"	"	"
亜鉛鍍波板	8-15-0	9-5-0	9-15-0	10-0-0	12-0-0	"	11-10-0	11-7-6	11-0-0	"	"	"
フープ及バンド	4-15-0	5-0-0	6-0-0	6-7-6	6-10-0	"	"	"	"	"	"	"
ワイヤー(素)	6-15-0	"	7-0-0	7-10-0	"	"	7-0-0	"	"	"	"	"
亜鉛鍍線	7-17-6	"	8-0-0	"	"	"	8-15-0	"	"	"	"	"
ワイヤーネール	6-10-0	"	8-10-0	"	"	"	8-0-0	"	"	"	"	"

第5表 1937年合衆國鐵鋼月平均價格表

ピツバーグ相場(別に斷りなき限りベース又は爐渡, 屑鐵は消費者渡)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
形鋼	2.05c	"	2.20c	2.25c	"	"	"	"	"	"	"	"
プレート	2.05	"	2.20	2.25	"	"	"	"	"	"	"	"
棒鋼	2.20	"	2.40	2.45	"	"	"	"	"	"	"	"
棒鋼(冷間仕上)	2.55	"	2.85	2.90	"	"	"	"	"	"	"	"
ストリップ(熱間)	2.15	"	2.35	2.40	"	"	"	"	"	"	"	"
ストリップ(冷間)	2.85	"	3.15	3.20	"	"	"	"	"	"	"	"
スタンダード	2.90	"	3.05	3.15	"	"	"	"	"	"	"	"
スライキ												

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ワイヤー(素)	2'60	"	2'85	2'90	"	"	"	"	"	"	"	"
構造用リベット	3'25	"	3'45	3'60	"	"	"	"	"	"	"	"
シート(24番熱間 壓延焼鈍)	2'80	"	3'10	3'15	"	"	"	"	"	"	"	"
シート(9-10アリ ニュー焼鈍)	2'15	"	2'35	2'40	"	"	"	"	"	"	"	"
亜鉛鍍板(24番)	3'40	"	3'70	3'80	"	"	"	"	"	"	"	"
ブリキ(ベース ボックス)	\$4'85	"	"	\$5'25	\$5'35	"	"	"	"	"	"	"
ワイヤーネール	2'25	"	2'70	2'75	"	"	"	"	"	"	"	"
鋼 1-3% discount 管 (base 200 per ton)	69'5%	"	65'5%	64'5%	"	"	"	"	"	"	"	"
ベセマー銑 (ネヴィルアイランドベース)	\$21'50	"	\$24'10	24'50	"	"	"	"	"	"	"	"
製鋼用銑(同上)	20'50	"	23'10	23'50	"	"	"	"	"	"	"	"
第2號鑄物銑(")	21'00	"	23'60	24'00	"	"	"	"	"	"	"	"
可鍛鑄物銑(")	21'00	"	23'60	24'00	"	"	"	"	"	"	"	"
ベセマーフェロシ コン 10% (Jackson Co. base)	29'00	"	31'80	33'00	"	"	"	"	"	"	"	"
ピレット	34'00	"	36'40	37'00	"	"	"	"	"	"	"	"
シートバー	34'00	"	36'40	37'00	"	"	"	"	"	"	"	"
線材	43'00	"	46'20	47'00	"	"	"	"	"	"	"	"
高爐用 コークス (spot)	4'00	"	4'05	4'50	4'85	4'65	4'50	"	4'45	4'40	4'37	"
鑄物用 コークス (spot)	4'25	"	4'25	5'05	5'30	"	"	"	5'25	"	"	"
屑鐵 (Heavy melting Steel Scrap)	18'95	19'65	22'40	22'75	19'55	18'40	19'40	21'85	20'40	17'15	14'10	12'75
屑鐵 (low Phosphorus Scrap)	24'00	25'15	26'70	27'15	25'55	25'00	25'15	26'50	25'65	22'15	18'70	17'50
屑鐵 (No. 1 Cast Scrap)	17'50	18'15	19'20	19'50	8'80	18'70	18'90	20'25	19'30	17'95	16'50	16'00

第6表 過去10ケ年に於る合衆國鐵鑛石價格表

年次	買付日	オールドレランダ ベセマー		オールドレランダ ノンベセマー		メザビ ベセマー		メザビ ノンベセマー		銑鐵價格 (ヴァレー)	
		t 當 弗	一單位當 仙	t 當 弗	一單位當 仙	t 當 弗	一單位當 仙	t 當 弗	一單位當 仙	ベセマー 銑	第2號 鑄物銑
1937	1937年 3月 12日	\$5'25	10'194	\$5'10	9'903	\$5'10	9'903	\$4'95	9'612	24'50	24'00
1936	1936年 4月 3日	4'80	9'320	4'65	9'029	4'65	9'029	4'50	8'738	20'00	19'50
1935	1935年 5月 4日	4'80	9'320	4'65	9'029	4'65	9'029	4'50	8'738	19'00	18'50
1934	1934年 5月 19日	4'80	9'320	4'65	9'029	4'65	9'029	4'50	8'738	19'00	18'50
1933	1933年 6月 12日	4'80	9'320	4'65	9'029	4'65	9'029	4'50	8'738	16'00	15'50
1932	1932年 6月 12日	4'80	9'320	4'65	9'029	4'65	9'029	4'50	8'738	14'50	14'50
1931	1931年 4月 15日	4'80	9'320	4'65	9'029	4'65	9'029	4'50	8'738	17'00	17'00
1930	1930年 4月 1日	4'80	9'320	4'65	9'029	4'65	9'029	4'50	8'738	19'00	18'50
1929	1929年 3月 22日	4'80	9'320	4'65	9'029	4'65	9'029	4'50	8'738	18'50	18'00
1928	1928年 4月 16日	4'55	8'835	4'40	8'544	4'40	8'544	4'25	8'252	17'50	17'25

イ、英國(未曾有の製鋼高)

英國の製鋼業は昨 1937 年に於て更に伸長の歩を進め、前 2 ケ年に於て引續き増産を示し來た、其生産高は昨年は月毎に増加し遂に未曾有の新記録を作るに至た。斯くの如き景況には必ず價格高を伴ふことは不可避のことであつたが、然し嚴格なる統制は從來の好況期に見たるが如き高潮の價格レベルを現出せんとする凡ゆる企てをよく阻止したのであつた。

昨年早々政府は大量の鋼材を必要とする龐大な軍擴計畫の實施に着手した。此の計畫の影響は製鋼業者ばかりでなく其他多くの諸工業に活氣を與へたのであつた。

斯業に與ふる軍備擴張の影響に就ては過大視せられる傾向がないとは云へないが然し 1937 年早々、新しい刺戟を與へたことは疑な

き事實であつて、正當なる判斷力を有する人々の意見を以てすれば恐らく 1938 年の大半は其の影響を享有するものと見られて居る。而して其の反動の起る時期を豫言することは不可能とするも、それがいつかは襲來すべきことは明かである。故に製鋼業者は將來に就ては大いに考慮を必要とするが兎に角、暫らくは、恐らく現在の生産能力を極東に働かせねばならぬことと思はれる。斯く言ても、彼等の全勢力を軍需品の製作に集中して居ると言ふ意味ではない。普通の取引に於ても此の二、三年來著しい好況を呈して居る。

製鋼高のレコード

昨 1937 年最初 10 ケ月間の製鋼高は 10,681,900t に達し英國製鋼史上未曾有の記録であつて月生産高に於ては 9 月の 1,163,000t を最高とする。一方 9 月の銑鐵日産率は 1920 年以來の最高記録であ

つた。6月から9月末に至る間に於て6基の熔鑄爐が増設され、これが爲め銑鐵の生産高は大戦後の好況期以來の新記録を樹立し、その月生産高に於ては10月の769,600tが最高であつた、昨年最初10ヶ月間の銑鐵生産合計は6,949,100tに達した。

銑鐵業者にとつて幸であつたことは、1936年中甚しく不安を惹起したコークスの缺乏が大いに緩和されたことであつて、価格は尙高率を持続したが銑鐵業者は1938年のコークス引渡に對しても大量の契約を締結し得る事情になつて來た。

昨年10月末日現在の熔鑄爐操業爐数は133基で、これに對し1月は113基、前年1月のそれは100基であつた。

他方に於ては、利用すべき製鋼用屑鐵の數量が問題となり、これにも統制の手が延ばされた。昨年早々、英國鐵鋼聯合會と英國屑鐵商組合との間に協定成立し、これに依て、屑鐵は此の2團體の許可なくては輸出することが出来なくなつた。又製鋼工場に使用される屑鐵に就ては價格も一定され、尙、徒らに蓄積されて居ると思はれる屑鐵類は總て解放するやう全國に向て助力を求むる手段が講ぜられた。

昨年英國市場に於る鐵鋼價格は徐々に引上げられたが然し前述の通り其の引上げ程度は斯業の好況に比すれば大したものではなかつた。1936年末近く銑鐵業はフォーヂ及鑄物銑の價格をt當り6志値上げしたが又6ヶ月後年末迄と云ふ條件でも當り1磅の引上を行つた。此の値上はコークスの高値と鐵道運賃の5%引上に據たものである。11月に至り鑄物銑生産業者組合に於ては割戻制度を採用した。これは當時ヘマタイト銑及鋼の場合に採用されて居たものと同様なものであつた。0.75%以上の隣を含む一切の銑鐵に對して5志の値上が行はれたが然しこれは英國銑のみを購入する消費者には割戻の形に於て返來ることになる。

1938年を通じ價格の据置 鋼材の價格は原料の値上に伴ふて昂騰した。新價格は5月1日に發表され形鋼t當り1磅17志6片の値上となり年末迄一切の取引はこれに依ることゝなつた。斯くして向ふ8ヶ月間斯業に安定を與へたが、尙英國鐵鋼聯合會に於ては11月9日鋼材の現行價格を1938年一杯据置とする旨發表した。

當事者が如何に貿易事情の逆調を招くやうな價格の變動を回避せんとすることに意を用ひて居るかの證左として次の事を附け加へて置く。即ち昨1937年5月の値上前に於て鋼價の引上が行はれたのは1936年の5月であつて、2の場合夫々輸入關稅諮問委員會の承認を経て改變されたのであつた。前年の値上から昨年の値上まで12ヶ月間を經過して居るが其間原料費は豫想以上に昂騰し、外國鑛石は50%、コークスは36%、屑鐵は20%の跳躍を見たのであつた。

輸入關稅諮問委員會に於ては、昨年末半期初頭に於る斯業の切迫事情に鑑み鐵鋼輸入税引下の急務を決議するに至た。當時英國の生産力が激増せる需要に對處し得なかつたことは言ふまでもなかつた。多くの壓延工場に於ては、鋼片、シートバー等の原料不足に依て、作業休止の止むなきに立ち至た。加ふるに建築用鋼材に對する逼迫は各方向に熾烈を極むるものがあつた。

關稅引下の決議は當時益々尖鋭化しつゝあつた、鐵鋼材の不足を緩和する唯一の手段として全國需要者から歓迎された。第4-4半期に於ては半製品の供給状態は非常に良くなり壓延工場の作業も正規に復歸するに至た。而して大陸からの供給は、佛、白の生産業者が對英輸出を一層考慮する傾向に在るが爲め今後も持續するものと見

られて居る。

輸出入 1937年最初10ヶ月間に於る英國の鐵鋼輸出高は、價額の點に於ては前年同期のそれに比し約35%を増加した。即ち1936年のt數1,807,988t、價額29,477,987磅に對し1937年はt數2,183,760t、價額35,955,546磅であつた。販路は英帝國內の市場が一番多く、其の中加奈陀市場が第一位を占め、次は從來同様南阿であつた。

關稅の引下と共に半製品のみでなく製品の輸入が激増したことは言ふまでもない。昨年第3期の輸入高は第1期の373,473t、第2期の348,873tに比し477,445tに増大した。最初10ヶ月間の輸入高は1931年同期の1,298,352tに比し1,482,462tであつて、主なる供給國は米國、加奈陀及白耳義であつた。

製鋼高の増大は屑鐵の輸入増加を伴ひ、昨年の輸入高は前年に比し著しく大で、其の主なる仕入先は米國、瑞典及アルゼリアであつた。一方屑鐵の輸出は製鋼業者の需要増で激減した。7の製鋼組合が英國鐵鋼聯合の勸告に基き1938年末迄現在價格の据置を決定したことは、全國諸工業に甚大なる好影響を與ふるものと見られ、其の重要性は決して輕視し得ざるものである。而もその決議には、生産費の昂騰著しきもある爲め反對意見がないでもなかつたが、然し大乘の見地から、斯業の安定を確保する目的の下に遂行されたのであつた。斯く製鋼業者が生産費の重荷を敢て甘受せることは、茲數年來進捗を示し來た組織の改造に依り價格を現在のレベルに据置くことが出来るであらうことゝ、大量販賣と言ふ健全なる方法に依て生産費高を征伏し得るであらうことに彼等の期待がかけられて居ることを明かに物語るものである。且彼等は運賃費とコークス費とに關しても救済され得ると云ふ希望を持て居る。

昨年造船業は全年を通じ好況を持續した。最近の數字に就て見るに、目下世界に於て建造中のt數の内40.8%が英國と愛蘭で建造されてゐる。或る二、三の造船所に於る建艦作業は1940年迄は多忙であると見られて居るが尙商船の注文が更に増加してもこれに應ずる能力を有して居る。クライド造船所に於る昨年10月の進水t數は1934年9月以來の最高記録で、進水隻數11隻、t數50,000tを超へた。クライド造船所のみならず、海軍からの手持注文を完成する迄には二、三年を要するであらう。昨年最初10ヶ月間に於て、スコットランド造船業者の手に依て進水せる隻數は11隻、合計357,000tであつた。極東及歐洲に於る紛争は、鐵鋼貿易事情の考察に際し見逃し得ざる事件であつて、1938年の貿易展望を豫斷する人々に少なからざる關係を有する。(續く)

(“Steel” Jan. 3, 1938 “Iron Age” Jan. 6, 1938
Stahl und Eisen. Jan. 20, 1938)

**世界市場の割當及價格協定に關する歐米製鋼業者協商
其の後の成行 (“Metal” march 4, 1938)**

はしがき 歐洲鋼カルテルは世界市場の割當及價格協定に就て亞米利加製鋼業者と協商せんが爲め本年2月4日其の代表委員を渡米させた。アメリカ鋼輸出組合はこれを紐育に迎へて會商することになつたが、この歐米輸出業者間の協力計畫に就ては從來數次に互に歐洲に於ても又米國に於ても會合審議されたものである。計畫と云ふのは、世界の鋼市場を安定價格に於て一定の割當額に基き配分せんとすることにある。

ブラッセル、3月3日(ルーター)。歐洲鋼カルテルに於ては本日の會議終了後次のコミュニケを發表した。

歐洲鋼カルテルに於ては3月2日及3日ブラッセルに會議開催

せり。遣米代表者より米國輸出業者と協定成立せる旨報告あり。一般輸出市場統制の完璧を期する意圖を以て、且新協定の實行を確實ならしむる爲めに廣大な權力を有する小委員會をロンドンに設置することに決定せり。價格は堅持されることとなり、而して一般規約に違反する者に苛酷の罰金を課する決議に對しては各部門共異議なく賛同、又此の罰金はカルテルに對する責任を嚴守せざる工場及販賣業者の代理商にも同様適用せらるべし。

紐育 3 月 3 日發 主要鐵鋼材に關する歐洲鋼カルテルとの輸出協定問題は國內生産業者の互讓的態度に依て徐々ではあるが進行しつつあることは明かである。歐洲鋼カルテルの代表者が 2 月初旬來訪以來當市ウエストストリート 75 番地鋼輸出組合の小委員會に於ては多數の關係生産業者と割當協定の取極めに就て努力を拂て來た。然しながら未だ解決されない細目が残り、消息通の意見に依れば此の計畫が實現するまでには尙數ヶ月を要すると見られる。前に報じた通り現在の協商には、プレート、セーブ、バー、シート、ストリップ、フープ、バンド、線製品及若干の半製品が含まれて居る。一方ブリキとパイプとに就ては既に國際協定が成立してはゐるがパイプは今迄の所、充分カルテル的に統制されてはゐない。

完全なカルテル協定の骨子とする所は各參加生産國に對する割當を設定し然る後各國内に於る生産業者に對する配分を設定することである。一方價格は外國市場を安定する意圖の下に於て、各消費國の爲めに制定されるもので、斯くすれば消費者、生産者の双方を結局窮地に陥らしむるが如き殘忍な競争が避けられる。合衆國は生産國として遙かに一頭地を拔き且關係すべき生産者が夥しい數に上る爲め合衆國に於る數多の販賣業者をカルテルの傘下に置くことの困難であることは言ふまでもない。數種の鐵鋼材生産業者は一、二の製品のみで就て、輸出協定に關與することはあらうが、然し必しも全部の製品に就て參加するとは思はれない。又生産業者は世界の或る一、二の市場のみに對する鋼材の販賣に關與することはあらうが、これ亦必しも全市場に對して關與するとは思はれない。故に折衝すべき多くの細目があり、從て今茲で此の輸出協商がどれだけの範圍のものかを精確に言ふことは困難である。加ふるに協商に参加して居る生産業者の意向がまちまちとなつて居る。尙又最近輸出に活動を見せて居た或る生産業者の如きは本協定に参加しないことを明白に言て居る。然しながら次ぎ次ぎと持ち出される新提案が誘惑的に働きかけることはあり得べきことである。尙地理的に不利の位置にある生産業者や又今迄曾て輸出に關心を持たなかつた生産業者等は恐らく參加することはない。然し代表者の大部分は本協商の成功を信じて居るものゝやうに見受けられる。本協定に参加を逡巡せしめる要素の一は協約の有効期間がどれだけであるかと云ふ點にある。カルテルの協約期間は通例 3 ヶ年のものが多いが本協商の場合に於ては 3 ヶ年と 5 ヶ年の期間が考究されて居る。

どの年を以て基準とするか 國內生産業者に配分する割當額設定の基礎は色々提案されて居り、又今後も異た提案が出されるであらう。例へば最初に 1936 年を基準とする割當が提議されたが其後 1937 年中の或る一定期間を基礎とする案が出されたと言はれる。言ふ迄もなく割當問題に對しては立場を異にする 2 の業者がある。即ち 1. 比較的最近になつて、輸出市場に進出し本協商に於て提案される以上の割當を希望する生産業者。2. 多年輸出貿易に活躍し輸出市場の開拓に多額の費用を費やし從てカルテルに参加しても、しないで別に利益のない普通のものとする割當額を配分される時、自然この足を踏む生産業者。然し此の兩者間に互讓的態度が見受け

られるやうになつた爲め結局は圓滿な割當案が出来上るものと信じられて居る。

最近或る英國の新聞紙は英國代表者が歸國後此の會商を不成功とし結局は流産の運命にあるかの如き悲觀説を傳へて居る。然し此の報道は眞意を傳ふるものでなく、アメリカの生産業者間には今尙満足な協定を得んが爲め會議が續けられて居る。(K. K. 生)

銅使用制限(商工省令第十八號)(昭和十三年四月二十三日制定)

銅使用制限規則

第一條 本規ニ於テ銅合金トハ黃銅(真鍮)、青銅、砲金、洋銀(洋白)及赤銅ヲ謂フ

第二條 建築物ノ屋根、庇、樋、化粧張、煙突、排氣筒、棹、扉、窓格子、手摺、階段止又ハ日除金具トシテ銅又ハ銅合金ヲ使用セントスル者ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ提出スベシ

一 銅又ハ銅合金ノ種類別使用數量(前條ニ規定スル用途別ニ記載スベシ)

二 銅又ハ銅合金ヲ使用セントスル事由

三 建築物ノ位置

四 建築物ノ用途

五 建築物ヲ建築スル場合ニ在リテハ工事著手及竣工ノ豫定期間

六 請負人アルトキハ請負人ノ氏名名稱

第四條 左ニ掲グル物品又ハ其ノ部分品ヲ製造スル場合ニ於テ銅又ハ銅合金ヲ使用セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ輸出品又ハ其ノ部分品ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 ナイフ、スプーン、コップ、菓子器、盆其ノ他ノ飲食用器具

二 鍋、釜、湯沸、金網、十能其ノ他ノ厨房用器具

三 火鉢、箆箭、机、傘立、帽子掛其ノ他ノ家具什器

四 花器、置物、賞盃、額縁、鳥籠其ノ他ノ美術裝飾品

五 ブローチ、フック、鈕釦、コハゼ、美錠其ノ他ノ被服附屬金具

六 煙管、シガレットケース、ライター、灰皿、煙草盆其ノ他ノ喫煙用器具

七 バンドバッグ、コンパクト、鞆、傘、杖其ノ他ノ身廻用品

八 簪、ピン、帶止、鎖、指輪其ノ他ノ裝身具

九 万年筆、ペン、インクスタンド、文鎮、紙挾其ノ他ノ文房具

十 把手、蝶番、戸車、レール、釘其ノ他ノ建築用附屬金具

十一 玩具

十二 扇風機(工鑛業用ノモノヲ除ク)、ストーブ、シャンデリヤ、電氣スタンド、金庫、書類箱及冷蔵庫

十三 看板、ネームプレート及廣告用文字

十四 前各號ニ掲グル家庭用金物及雜貨

第五條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ地方長官ニ提出スベシ

一 製造スル物品ノ名稱及數量

二 銅又ハ銅合金ノ種類別使用數量(新並ニ屑及故ニ區別シテ記載スベシ)

三 使用スル新銅又ハ新銅合金ガ第六條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ相手方別購入數量

四 銅又ハ銅合金ヲ使用セントスル事由

第六條 第四條各號ニ掲グル物品又ハ其ノ部分品ニシテ輸出品又ハ

其ノ部分品ニ非ザルモノノ原料又ハ材料ヲ製造スル場合ニ於テ銅又ハ銅合金ヲ使用セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第七條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ次ニ掲グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ地方長官ニ提出スベシ

- 一 製造スル原料又ハ材料ノ名稱及數量
- 二 銅又ハ銅合金ノ種類別使用數量（新並ニ屑及故ニ區別シテ記載スベシ）
- 三 製造スル原料又ハ材料ノ用途
- 四 製造スル原料又ハ材料ノ相手方別販賣數量

第八條 輸出品又ハ其ノ部分品トシテ第四條各號ニ掲グル物品又ハ其ノ部分品ヲ製造セントスル者ハ豫メ次ニ掲グル事項ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

- 一 製造スル物品ノ名稱及數量
- 二 銅又ハ銅合金ノ種類別使用數量
- 三 製造スル物品ノ相手方別販賣數量

第九條 第四條各號ニ掲グル物品又ハ其ノ部分品ニシテ輸出品又ハ其ノ部分品トシテ製造シタルモノヲ讓受ケタル者國內消費ニ充ツル爲之ヲ販賣セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

附 則

本則ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ許可ヲ受クベキ者ニシテ本則施行ノ際現ニ第二條ニ掲グル用途ニ銅又ハ銅合金ヲ使用中ノモノニハ本則ヲ適用セズ但シ本則施行ノ日ヨリ二週間以内ニ第三條各號ニ掲グル事項ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ニ届出ヅルコトヲ要ス

第四條又ハ第六條ノ許可ヲ受クベキ者ニシテ本則施行ノ際現ニ第四條各號ニ掲グル物品若ハ其ノ部分品又ハ第六條ニ規定スル原料若ハ材料ヲ製造中ノモノニハ本則ヲ適用セズ但シ本則施行ノ日ヨリ二週間以内ニ第五條各號又ハ第七條各號ニ掲グル事項ヲ地方長官ニ届出ヅルコトヲ要ス

本則施行ノ際現ニ銅又ハ銅合金ヲ使用シテ第四條各號ニ掲グル物品又ハ其ノ部分品ノ製造ヲ爲スヲ業トスル者ハ昭和十三年五月一日現在ノ當該物品又ハ部分品ノ在庫數量ヲ本則施行ノ日ヨリ二週間以内ニ地方長官ニ届出ヅベシ

銑鐵鑄物ノ製造制限（商工省令第十九號）

昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依リ銑鐵鑄物ノ製造制限ニ關スル件次ノ通定ム

昭和十三年四月二十五日

商工大臣 吉野 信次

銑鐵鑄物ノ製造制限ニ關スル件

商工大臣ノ指定スル物品又ハ其ノ部分品ハ銑鐵ヲ以テ之ヲ鑄造スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令ハ昭和十三年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

〔參 照〕

昭和十二年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件ナリ

商工省告示第百二十號

銑鐵鑄物ノ製造制限ニ關スル件ニ依リ次ノ通物品ヲ指定ス

（昭和十三年四月二十五日）

商工大臣 吉野 信次

鉛筆削

文鎮

- インク壺
- 貯金箱
- 茶道用風呂釜
- 扇風機（工鑄業用ノモノヲ除ク）
- 煙草セツト
- 花器
- 燈籠
- 玩具
- 柱掛
- 茶卓
- 置物
- 電燈支柱用腕木
- 扉
- 持送り
- 風窓
- 椅子
- 帽子掛
- 手摺
- 陳列臺
- 電柱
- 柵
- 街路樹保護板
- 紙屑箱
- ホチキス
- 火鉢
- 天水鉢
- 鏡臺
- 灰皿
- 水盤
- 火消壺
- 鉢
- 額縁
- 菓子皿
- 電氣スタンド
- 門柱
- 瓦
- 看板
- 窓枠分銅
- 金庫（手提金庫ヲ含ム）
- 掃除器
- 格子
- 街頭照明柱
- 欄干
- 交通標識
- 溝蓋

第 6 回特許局發明展覽會開催

本展覽會開催に關シ特許局長官より本會々々宛次ノ通知ありたり發明考案ノ普及發達を圖る爲め當局に於ては年々發明展覽會を開催することに相成居候處今般其ノ第 6 回展覽會を來る 11 月 5 日より 15 日に至る 2 週間に互リ東京市麹町區丸ノ内三丁目府立東京商工獎勵館内に於て開催致候に就ては別紙印刷物に付委細御承知ノ上出品斡旋方可能御高配相煩度此段得貴意候也（印刷物は本會に在リ）

1. 會期 自昭和 13 年 11 月 2 日至同 15 日
2. 同會事務は 10 月 26 日迄は特許局に於て、10 月 27 日より 11 月 19 日迄は會場に於て、11 月 20 日以降は特許局に於て之を取扱ふ事
3. 出品者は特許局發明展覽會規定に依り申込むべし。

發明獎勵費交付に關する件

昭和 13 年度發明獎勵費交付に關シ次ノ通り特許局長官より本會宛周知方依頼あり。

優秀なる發明を誘掖獎勵する爲從來發明獎勵費を交付し來り候處昭和 13 年度に於ても豫算ノ範圍内に於て發明ノ試験、研究費又は見本製作費ノ補助可相成筈に付貴會關係者に此ノ旨可然周知方御取計相煩度此段得貴意候也（申請者は商工省令發明獎勵費交付規則に依る）

日鐵職制改革同時に人事異動發表 日本製鐵では 5 日午後 2 時より丸ノ内郵船ビル本社に於て重役會を開き各種鋼材共販關係ノ事務取扱ひに伴ひ販賣部並に總務部ノ一部職制改革を行ひ現販賣部（契約、整理ノ 2 課）を第 1 課第 2 課第 3 課第 4 課、整理課ノ 5 課に、關係會社ノ統制並に海外事項を司らしむるため現總務部内に外事課を設置することに決定、更に八幡製鐵所次長磯谷光亨氏ノ華中鐵鑄へ轉出に伴ふ本店並に支社ノ製鐵所長、及び部課長級ノ廣汎なる人事異動を決定發表した（カソコ内舊職）

▲職員社外勤務規定第 2 條により休職、華中鐵鑄株式會社へ勤

務(常務取締役(八幡製鐵所次長) 理事磯谷光亨 ▲臨時建設局勤務(輪西製鐵所長) 理事横田文吉 ▲輪西製鐵所長兼支部長(本店臨時建設局事務部長兼經理部長) 理事北村保太郎 ▲八幡製鐵所經理部長(本店總務部次長兼人事課長事務取扱) 參事森田惠三郎 ▲臨時建設局事務部長(釜石製鐵所庶務部長) 理事三鬼隆 ▲本店經理部長事務取扱兼務, 常務取締役飯田九州雄 ▲釜石製鐵所庶務部長(釜石製鐵所會計課長) 參事權藤達夫 ▲秘書役兼務(本店總務部長) 理事橋本芳雄 ▲人事課長兼外事課長(本店第二購買課長) 參事平尾清治 ▲本店第二購買課長(臨時建設局廣畑支部) 參事荒木幸雄 ▲臨時建設局廣畑支部(庶務主管) 勤務(八幡製鐵所成品課長) 參事川本健治 ▲第一課長事務取扱兼務(本店販賣部次長) 參事石津武彦 ▲本店販賣部第二課長(八幡製鐵所福利課長) 參事大島義男 ▲本店販賣部第三課長兼務(本店販賣部整理課長) 參事木村喜一 ▲本店販賣部第四課長(本店販賣部主事) 稻山嘉寛 (東朝 5月6日)

日鐵廣畑工場大熔鑪爐着工 製鐵國策の重大使命を帯びて建設準備慌だしい日鐵廣畑支部ではさきに1,000t 熔鋼爐 2基のうち1基の基礎工事完了をみたがいよいよ大熔鑪爐が日鐵の誇り高く株式會社大阪鐵工所の請負によつて建設に着手のこととなつた、爐の高さ65m 附屬の捲揚塔および機室高さ42m 除塵器2組高さ28m 熱風爐7基高さ35m これに要する鋼材7,670t 時價2,241,642圓でこの製鐵設備請負金額530,000圓, 使用人員男90,000人, 女2,000人, この賃銀約90,000圓ですべてが桁外れ、うち1基は明年9月竣工, 10月には火入出来る豫定, 他の1基も翌15年1月には完成のはずで工事漸く本格化感容現出の力強い息吹きをしてゐる、なほ煙突は高さ77m 頂上内徑36m のもの3基が大正鐵筋コンクリート株式會社によつて先般來着手、本年中には完成の豫定である、かねて申請中だつた300t 起重機、遷鑪車3基、鑛石車1聯、鑛石秤量車3基も11日附縣知事の認可が發せられ鐵都建設の巨大工事は着々と具現されてゐる。(大毎 4月15日)

太平鐵山の概況 長江沿岸におけるわが經濟權益の確保といふ大きなフォーカスから展望した場合、どうしても見逃すことの出来ないものは第一の基點として重要な意義を持つ蕪湖縣地方の資源であり、わけても貿易總額4,809,000弗(昭和10年度)を吐いて蕪湖米6400,000弗に次ぐ鐵鑛石でなければならぬ、殊に昭和11年よりわが鐵鋼國策の重點が漸次南洋鐵鑛に轉向されつゝある現在であつて見れば、大冶鐵山の使用困難な現在としては當然蕪湖地方の太平鐵鑛こそは凡ゆる長江資源のうち再認識を要するものの一つである。

太平鐵鑛は大冶鐵鑛と並稱されるほどのもので太平鐵鑛、三山鎮孤山鐵鑛山、繁昌縣桃冲鐵山などを有し、このうち桃冲鐵山は安徽省荻港より、太平鐵山は馬鞍山および陳家圩より積出され何れも蕪湖海關を経由するもので、湖北省大冶鐵山の鑛石といへども冬季の減水期間中は蕪湖港より日鐵へ向けで輸出されてゐたためその利用困難の現状では有力資源として地歩が益々優位づけられてきたわけである。

太平鐵山を經營するものには福利民鐵鑛公司、寶興鐵鑛公司、益革鐵鑛公司、振冶鐵鑛公司の4社があるがその年輸出總量は約400,000t で鑛質は赤鐵鑛(ヘマタイト)52% から64%, 平均57% の良質で、これを大冶の輸出總量年550,000t から600,000t に比するとその有望なることが知られよう、たゞし現在のところは鑛区内にまだ敗殘兵が出没するため早急の採掘困難で、事變後はじめて中公司在太平鐵山の採掘に着手したものの敗殘兵の襲撃に遭てやむな

く中止、僅かに馬鞍山碼頭の貯鑛50,000t の日本輸出を行ひつゝあるに過ぎない實情であるが、漸次治安の回復とともに日鐵は勿論、日本鋼管をはじめとするアウトサイダーの進出が大に期待されてをり、加ふるに鐵と不可分の關係にある石炭に至ては長江の對岸たる皖北九龍崗に年額2,200,900t を移出し、現に搬出軌道の終點たる裕溪鎮には30,000t の貯炭を見る有様であるから、近き將來における中支工業の源泉として俄然注目されるに至た。

いま事變前における太平および桃冲の兩鐵山の概況を示すと次の通りである。

鑛山名	會社名	鑛量t
南山	當塗福利民鐵鑛公司	3,000,000
小姑	同	2,000,000

(その他扇面山、妹子山、姥姥山、載山、小凹山などあるも鑛量不明)

この外國資本關係は表面だけ支那人資本だが實質は日支合弁にて資本金1,000,000圓でその内譯は三井鑛山400,000圓, 福利民鐵鑛公司400,000圓, 中公司200,000圓, その他に三井鑛山より借入金として2,500,000圓ドル50,000圓があるこの他大凹山(當塗寶興鐵鑛公司)は鑛量2,000,000t あり、支那資本にして債權者たる支那銀行團の管理を受けてゐたもので、鑛山(當塗振冶鐵鑛公司)は鑛量2,000,000t で中公司より約170,000弗の借款あり目下採掘せんとしてをるも敗殘兵出沒のため採掘困難である。

なほ國營鑛業委員會に屬する三山鎮鑛山のうちでは孤山100t 慕齊山280,000t, 虎山40,000t, 銅山92,900t, 大山150,000t, 舊銅山250,000t, 銀象山23,000t また日鐵より約6,000,000圓の借款を有する繁昌縣桃冲(裕繁鐵鑛公司)は2,000,000t の鑛量を有してゐる。(大毎 5月5日)

滿洲の特殊鋼生産計畫 生産力擴充に基く各種特殊鋼の需要は日滿を通じて最近著しく増加したため、内地側關係各社では目下急速に増産擴張を行つてゐるが滿洲國內においてもこの程滿鐵の懸案たる高級特殊鋼生産會社新設計畫が具體的に決定したのを筆頭に、昭和製鋼所、住友金屬工業、本溪湖煤鐵等新設計畫續出し業界の注目を惹いてゐる、各種計畫は次の如くである。

社名	原料	年産目標
滿鐵	スポンヂ鐵	6,000t
昭和製鋼所	屑鐵	5,000
住友金屬	屑鐵	20,000
本溪湖煤鐵	スポンヂ鐵	20,000

滿鐵 滿鐵の計畫は撫順の臨時製鐵試驗工場における日下式高級特殊鋼製法が完成に達したので、當初は車輛用特殊鋼の生産から着手する計畫である。原料のスポンヂ鐵は昭和製鋼所より供給を仰ぐが、スポンヂ鐵を原料とする特殊鋼の生産は日滿を通じて滿鐵の計畫が初めてで資本金額は未定である。

昭和製鋼所 當初計畫は自社屑鐵を原料とし來年中に計畫を具體化して來年末には生産開始の豫定である。

住友金屬工業 工場を奉天に豫定し原料屑鐵は昭和製鋼所より供給を豫定してゐるが、昭和製鋼自體が自社屑鐵にて生産を行ひ將來生産目標を擴大する可能性あるため供給餘力の點で難點なしとせず目下兩社間に打合中である。

本溪湖煤鐵 原料は自社銑鐵及びスポンヂ鐵を使用し、當局より許可あり次第工場建設の豫定である。

滿業 大栗子溝富鑛開發を待たずして大規模生産に乗出す計畫を

有してゐる。

生産計畫の現状から製品は滿洲國における鐵鋼統制の建前より日滿商事を介して配給されることは當然であるが、政府側の意向としては特殊鋼の生産分野に関しては滿洲重工業會社がこれを一元的に獨占することなく各社の自由進出を認可する方針の如くである。

(滿洲日報 4月17日)

日鐵洞岡第二、1,000t 熔鑪爐火入 日本製鐵八幡製鐵所が工事を急いでゐた第二の1,000t 熔鑪爐(年産 350,000t)は 27日朝 8時45分から火入式を舉行古式に則り切火行事の後渡邊所長の手で火は點せられ谷製鐵部長が打鳴らす鐘を合圖に生産へのスタートを切た、この爐は延人員 720,060人、コンクリート約 35,000m³、耐火煉瓦約 10,000t 購入機械 2,500t、鋼材 15,000t、總工費 10,000,000圓、1年10ヶ月の日子を要したもので純國産一點張りの點は日鐵の世界に誇るべきものである。(東京日日 4月29日)

石景山製鐵所起工 北京西郊石景山製鐵所は豫て興中公司以復舊作業に着手して居た所北支における經濟建設器材自給確立の建前より日鐵が交渉して新たに資本金 2,000,000圓を入れコークス工場を増設、銑鋼一貫作業を行ふ事に決定したが、此程現地當局の正式認可を得て 24日起工式を舉行、復舊増設工事を 25日より本格的に進めるはずで、既に基礎作業は興中公司の委嘱により清水組の手で完成してゐるので更に日鐵の技術の外に清水組をも参加せしめて完成を急ぎ遅くとも 10月には火入式を行ふ豫定であり竣工の曉には次の如きスケールで操業を開始する。

1. 年産 80,000t、熔鑪爐 2基により一貫作業を行ふ。
1. 原鑪は龍烟鐵鑪に供給を受け井陘炭を以てコークスを製造する。(東京朝日 4月)

阪神の屑鐵業者配給會社を設立 鐵、銅、銑鐵、鑄物などの使用許可制度を實施した商工省ではさらに製鋼原料となる鐵屑、鉄力屑、古鐵、古鍋、釜などの配給統制を確定するため東京市岡田菊次郎商店その他 1ヶ月 2,000t 以上の鐵屑を取扱ふとみられる全國の鐵屑業者のうち 20名の商人を指定して近く設立の運びにある日本

鐵屑共販會社に關し阪神在住の約 60名の鐵屑問屋ではこれに對し「政府の主旨はよく分るが、共販會社の運行經營法は少數業者が利益を獨占するだけである配給統制を強化するためには既營業者を打て一丸としたものでない」と陳情、代案として商業組合法による屑鐵共同販賣統制商業組合の設立か、又は資本金 2,000,000圓の株式組織による日本屑鐵販賣會社案を提出したが

商工當局では取りあはぬので阪神地方屑鐵同業者間では連日鳩首協議を進めてゐたが 1日午前 10時大阪南区末吉橋通 1丁目大紙會館で阪神地方 53業者が參集協議の結果、資本金 480,000圓の株式組織で鐵鋼原料共同販賣株式會社の設立を決定、全國の同業者が一人残らず株主となれる案を發表、同日の出席者 53名が捺印し成行を注目されてゐる。(大朝 5月2日)

日本亞鉛鐵板工業組合共販結成協議 日本亞鉛鐵板工業組合では 21日以来有恆俱樂部において懇談會を開催協議を重ねてゐたが、當局の意嚮により共販組合結成の前提として次の諸項につき決定を見た。

1. 組合員生産割當比率基準方法の決定:一その方法は昭和 11年下半期及び昭和 12年上半期の 1箇年間の生産実績に依ることとする、但し休業中の 3社については準據すべき実績なきため別の方法により考慮協調す。
1. 價格協定方針:一工場渡し値段として原板價格(薄板共販の建)値に加工費その他諸掛りを加算し、1箇月若くは 2箇月先物として決定する、而してこの統制により問屋に壓迫を加へない方針から問屋の利潤を見込み餘裕ある販賣價格を認めること。
1. 薄板、白板に關しては統制に關する協調機關を設け、之によつて需給の調整を計る。

斯くして共販結成は全國に多數業者の散在するため相當困難を伴ふが遠からず結成に到るものと見られてゐる、なほ來る 30日 5月 1日の兩日東京に於て懇談會を兼ねて理事會が開催される筈。

(大阪時事 4月24日)

内外最近刊行誌參考記事目次

理化學研究所彙報 第17輯 第4號 昭和13年4月
 ○還元ニツケルの水素吸著に就て(低溫度に於る研究) 飯島俊一郎 (286)
 鑄物 第10卷 第4號 昭和13年4月
 ○金型試験片と製品との關係に就て 門鐵小倉工場 (165)
 ○鑄鐵の焼入硬化に就て(1) 岡本 幸治 (172)
 日本ニツケル時報 Vol. 6 No. 2 1938年
 ○耐蝕材料としてのニツケル及び非鐵ニツケル合金 ジェームス・エー・ラビット (172)
 ○化學工業に於るニツケル合金鑄鐵の用途 三島 徳七 (231)
 ○化學工業に於るニツケル合金鋼 大鳥 義清 (214)
 ○化學装置としてのニツケル及びニツケル合金の被覆鋼 厚木 勝基 (247)
 ○化學工業に於るニツケル觸媒 田中 芳雄 (262)
 ○ニツケル及びニツケル合金製化學装置の寫真集 (271)

採鑛冶金月報 第16年 第4號 昭和13年4月
 ○濕式銅冶金の副産物としての亞鉛 コバルト回收法に就て(4) 坂口 英行 (69)
 研究報告 (住友金屬工業株式會社) 第3卷 第1號
 ○新強力輕合金の研究(其の4) 五十嵐勇 北原五郎 (1)
 ○航空機用強力オーステナイト不銹鋼板の研究(第1報) 堀 慥爾 大橋秀吉 (18)
 ○變態點に於る冷却速度が炭素鋼の機械的性質に及ぼす影響 山下 政明 (45)
 ○特許特殊耐蝕性合金鋼に就て 大倉 幸雄 (60)
 ○外國製飛行機用プロペラの材質調査試験報告(其の1) 獨逸 V. D. M. 社製 3翅プロペラ翅及散 堀 慥爾 大橋秀吉 (75)
 滿洲冶金學會會報 第2卷 第16號 昭和13年4月
 ○昭和製鋼所豫備精鍊爐に就て 藤田守太郎 (1)
 ○海綿鐵製軟鋼の諸性質 日下 和治 (18)

- 鐵鑛のボールミル粉碎に就て 後藤 有一 (27)
- 航空研究所報告** 第13巻 第7冊 第161號 昭和13年4月
- タングステン耐酸化性に及ぶクロムの影響に就て
石田四郎 麻田 宏 東村三郎 (197)
- マツダ研究時報** 第13巻 第2號
- 合金分析法の實驗的研究(第2報)
新海重行 永田友三 柴田勝好 (49)
- 造兵彙報** 第16巻 卷4號 昭和13年4月
- パネの研究
細川清二 市野伊祐 小川 力 青戸虎藏 (13)
- 擲出彈體製造法に關する研究(擲出彈體底疵に關する研究も含む)
百合壽馬 山崎松之助 (39)
- 銃用鋼2號の研究 松尾忠愛 海法成一 (71)
- 鑛業** 第15巻 第4號 昭和13年4月
- 龍山鑛山調査報文 木下龜城 (5)
- 北支平原の炭田 (11)
- 電氣製鋼** 第14巻 第4號 昭和13年4月
- 發條鋼の諸性質 綿織清治 太田保雄 (139)
- 褐鐵鑛中の化合水分の定量に就て 奥野 修 (162)
- カーボン評論** 第5巻 第2號 昭和13年4月
- 電氣爐 佐々木武尙 (74)
- 製鐵研究** 第159號 昭和13年3月
- 非金属電熱體カーボリットに就て(第1報)
田所芳秋 須賀音吉 (101)
- 二三の合金の高温に於る冷却速度及びその比重に就て
海野三朗 (113)
- 動力(別冊)** 第34號 昭和13年4月
- 獨逸熔接汽罐規格
- 金屬** 第8巻 第5號 昭和13年5月
- 高級鋼 吉川晴十 (265)
- 結晶粒は加熱温度と共に成長する 山口珪次 (268)
- 特殊鑄鋼(II) 谷山 巖 (271)
- 彈性率, 彈性限, 比例限及降伏點の測定
(金屬材料の機械的性質とその試験法5) 上田太郎 (281)
- 高抗張力眞鍮及青銅の高温及低温に於る機械的性質
並に耐蝕性 尾木偶子 (289)
- マグネシウム及マグネシウム合金 三ヶ島秀雄 (297)
- 熔接協會誌** 第8巻 第4號 昭和13年4月
- 鑄鋼と軟鋼の電弧熔接部諸性質に關する基礎的研究(I)
中村 素 原田基一 (149)
- 熔接部に表れる線狀組織の研究(I) 岡田 實 (160)
- 鋼管接手の補強 大西 巖 (166)
- 工業國策** 第1巻 第1號 昭和13年5月
- 鐵のパーカーライジングに就て 米村敏郎 (62)
- 鞍山鐵鋼層雜誌** 第66號 昭和13年4月
- 滿洲産耐火粘土及礬土頁岩の研究(第2)
- 煙臺礬土頁岩及耐火粘土の加熱效果に就て 三田正揚 (1)
- 同上(第3)煙臺礬土頁岩に對する實驗 三田正揚 (51)
- 熔銑運搬中の脱硫黄の一實驗 堀金太郎 (67)
- 日本金屬學會誌** 第2巻 第4號 昭和13年4月
- Co-Fe-Cr 系合金の熱膨脹及び新合金「不銹不變鋼」
に就て 増本 量 (141)
- 青銅狀態圖の研究 濱住松二郎 (147)
- 耐酸合金の研究(第4報)
30%鹽酸による銅の溶解度に及ぶ添加金屬元素の影響
並にその濃厚耐鹽酸銅及ニッケル合金に就て
遠藤彦造 板垣 彰 (162)
- 過飽和固溶體よりその溶質金屬を析出する場合の體積
變化の機構とその學術上並に工業上の應用に就て(II)
川村宏矣 (173)
- 炭酸バリウムによる鐵の浸炭促進反應の機構に就て
柴田善一 寺崎義男 (187)